

Sonora XJで インキ使用量と 損紙の削減を実現

濱島印刷株式会社



Trendsetterの機種更新にあわせて Sonora XJを導入。高精度なインラインパンチと Sonora XJの相乗効果によって、従来より20%減の通し枚数でOKシートが得られ時間と手間を削減。損紙も大幅に減り、刷版の焼き直し回数も低減。

企画制作・デザイン力の強化に加え、 提案型営業を志向

濱島印刷株式会社は、1959年の創業以来、着実に発展してきた典型的な地元密着型の印刷会社である。九州新幹線の終着駅、鹿児島中央駅近くの市街に本社を、郊外の印刷工業団地に工場を構え、官公庁から学校、病院、スーパー、ホテルまで数多くの顧客を抱えている。営業品目もチラシ、パンフレット、ポスターから、書籍、包装紙、紙器類、フォーム印刷、シール、事務用印刷まで多岐にわたる。その一方で企画制作やデザイン力の強化にも積極的に取り組み、同社が企画編集から印刷、発行、配本まで手がける子育て支援情報誌「クレセール」は、隔月発行で遂に10年目を迎えた。自治体や教育機関からは地域に根ざした情報誌として高い評価を得るまでに成長した。また近年では

「Sonora XJはインキの載りがよく、刷り出しがきれいです。水の管理も容易で刷りやすく、インキの使用量も減りました」

「提案型営業」を徹底することで、紙器パッケージの受注開拓にも成功し営業分野の拡大を図っている。

絶大なる品質と安定性への信頼から 新しいCTPもコダックを選択

同社の印刷部門にはコーター付5色機から、4色機1台、2色機2



代表取締役社長 前田 幸一 氏



工場長 石崎 研郎 氏



企画デザイン課 係長 木佐貴 成吉 氏



2011年に導入した菊全判5色機



企画制作部門には13名が在籍



写真集や画集、紙器パッケージも得意分野

台、さらに封筒印刷機1台まで新旧5台の印刷機を備える。製版部門ではKodak Trendsetter プレートセッターでA3判から菊全判まで、それぞれサイズの異なる刷版を出力して印刷部門に供給している。同社では、今年6月に旧モデルのTrendsetter 3244ALを最新型のTrendsetter 800AL インラインパンチ付きモデルに入れ替えた。代表取締役社長の前田 幸一氏は、その決定要因を次のように話している。「従来のプレートセッターは、これまでに2回ヘッドを交換しただけで、導入以来15年間、大きなトラブルはなく安定して使い続けてこれました。今回CTPの入れ替えを検討するに当たり、信頼性とクオリティを第一に考えるとコダック製品しか、選択肢はありませんでした」同社では写真集や画集なども手がけているため、正確な網点出力で高い印刷品質が実現できるTrendsetterの導入が不可欠だった。またコスト削減と環境対応を図るため、刷版をKodak Sonora XJ プロセスフリープレートに入れ替えることも決断した。

印刷品質の向上と安定化にもSonora XJが貢献

同社が完全無処理版のSonora XJを知ったのは、昨年8月にコダックが福岡で開催したSonora XJの発表セミナーだったという。現像レスで環境に優しく、コスト削減に繋がると考えて採用の検討を開始。導入前の印刷テストはわずか2回だけで、今年5月に採用を決定した。一気に現像レスの製版フローに変えた理由について、工場長の石崎研郎氏は次のように話している。「導入前には実際のデータやカラーチャートを使って印刷テストを行いました。リピートの仕事で正確な再現性が得られるかを確認したのですが、わずかな色の違いで印象が変わる包装紙の仕事でも忠実に再現できました。これなら問題ないと判断してCTPの入れ替えと同時に現像有りプレートからSonora XJへの全面切り替えを行いました」CTPの入れ替えと同時に既設の自動現像機は撤去され、その日から現像プロセスのない新しいCTPワークフローがスタートした。新しいTrendsetterでSonora XJを毎月1,000～1,800版出力し、日々の仕事で実際に使ってゆくと、印刷現場では様々なメリットが生まれた。石崎工場長は「インキの載りがよく、刷り出しがきれいになった」「水の管理がしやすくなり、インキの使用量も減った」と絶賛する。Sonora XJにより、従来より20%減の通し枚数でOKシートが得られ、損紙の枚数も大幅に削減できたそうだ。なかでも20年間使い続けてきた4色機では、本刷り前に使うヤレの通し枚数が半減した。これにはSonora XJだけでなく、Trendsetterのインラインパンチシステムの高い

パンチ精度も大きく貢献しているという。色だけでなく見当合わせも迅速になって、前準備の手間と時間が大幅に削減できたのである。

プリプレス工程の処理時間が従来の半分に

製版部門でも大きなメリットが得られたと語るのは企画デザイン課係長の木佐貴成吉氏だ。「薬品による不安定要素がなくなって、日々の品質管理がとても楽になりました。また現像トラブルがないので検版も必要ありません。1～1カ月半ごとに行っていた現像液の交換や清掃作業も一切必要なくなりました。パンチも自動化されるなど、作業負担は大きく減って、現場に版を渡すまでの時間は大幅にスピードアップしました。感覚的には従来の半分の時間ですね」

これまでは印刷現場から版の焼き直しの依頼が来ると「30分待って」と答えていた木佐貴成氏だが「今は10分で渡せる」と胸をはる。それだけではない。新しい現像レスのワークフローでは焼き直し自体が10%減り、コスト削減にもつながっているそうだ。薬品や現像液の購入費用、廃液の処理費用、現像機のメンテナンス費用、光熱費など、現像処理に関連する経費はすべてゼロになり、経費削減効果は前田社長の予想通りだった。耐刷性についても、すでに5万枚通しの仕事を予備版なしで刷り終えるなど、確かな成果を上げている。さらに木佐貴成氏はコダックのサポート体制についても確かな信頼を寄せている。「トラブルが生じた場合でも、迅速に対応してもらえるのでとても安心しています。従来機でもトラブルのほとんどはリモートサポートで解決できています」

観光と農業が中心の鹿児島で、「食」をキーワードにビジネス拡大を目指す前田社長にとって、Sonora XJの環境性能は今後大きな戦力となるに違いない。「売れないモノ」を「売れるモノ」へと変えるパッケージの力を信じて、「印刷物で結果を出す」と語る前田社長の挑戦を、コダックのソリューションが支えている。



印刷団地内の同社工場

濱島印刷株式会社

代表取締役社長：前田 幸一
本社：〒890-0052 鹿児島市上之園町17番地2
TEL: 099-255-6121 / FAX: 099-259-1629
<http://www.k-hamashima.co.jp/>

コダック 合同会社

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)
大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270
仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

